

# 令和7年度看取り研修会アンケート集計結果

【日時】令和8年1月26日(月)19:00～20:30

【開催方法】ウェビナー

【テーマ】地域で支える看取り:意思決定支援とガイドブックの活用

【司会・進行】

金井 良晃 先生(TMG あさか医療センター副院長・緩和ケアセンター長 朝霞地区在宅緩和ケア推進ネットワーク議長)

【内 容】

■講義:地域での看取りと意思決定支援 ■「がんと向き合う暮らしのガイド」概要と活用

米田武史 先生(医療法人循和会理事長・朝霞中央クリニック院長・朝霞地区在宅緩和ケア推進ネットワーク副議長)

■「がんと向き合う暮らしのガイド」活用できる場面

ガイドブック制作チーム

【事前申込数】128名

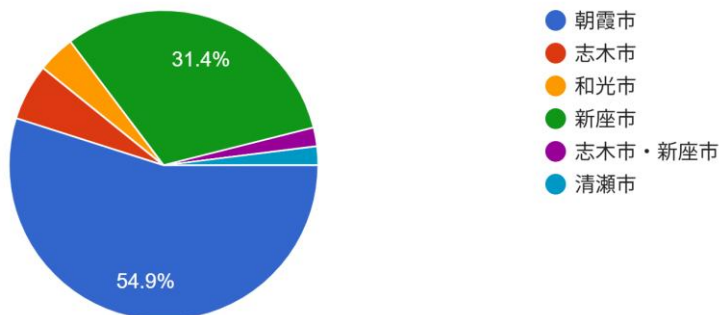
【当日参加者数】94名

【アーカイブ再生数】114回(2/9現在) ※配信期間:1月28日(水)～2月10日(火)

【アンケート回答者数】51名(44%) ※集計期間1月26日(月)～2月4日(水)

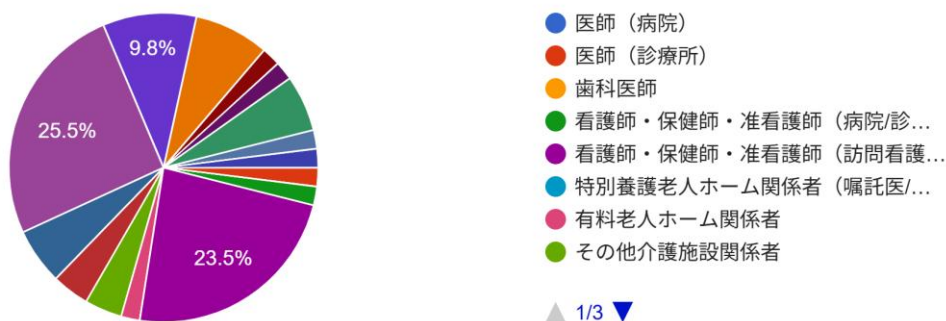
## 1. 所属の所在地を教えてください。

51件の回答



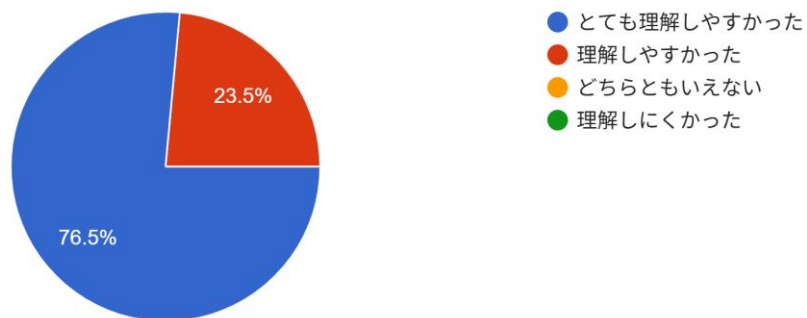
## 2. 職種を教えてください。

51件の回答



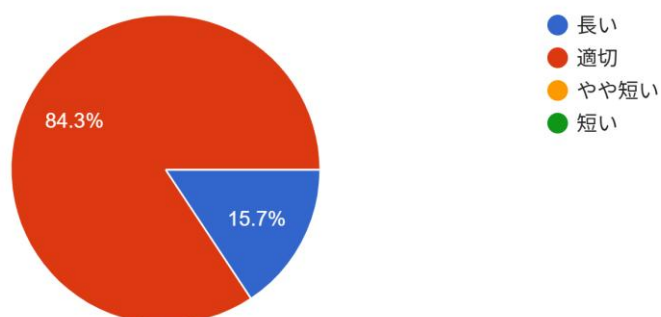
### 3. 本研修の内容は理解しやすかったですか

51 件の回答



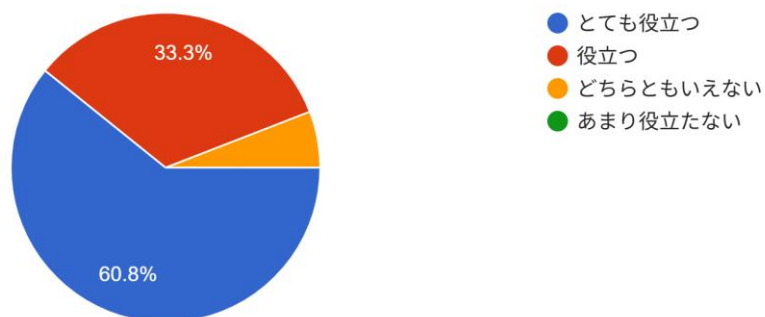
### 4. 研修時間（90分）は適切でしたか

51 件の回答



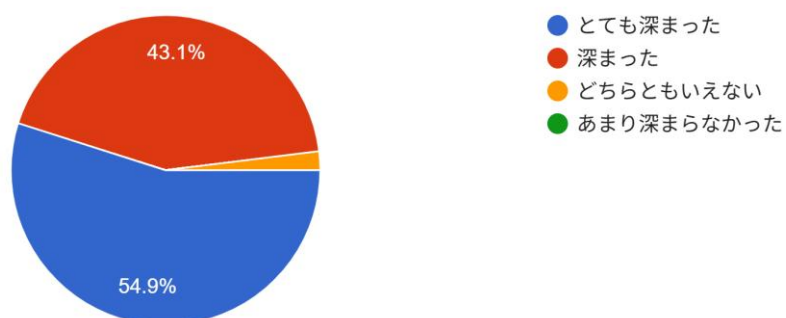
### 5. 本研修のテーマ「地域で支える看取り：意思決...的活用」は、ご自身の業務に役立つ内容でしたか

51 件の回答

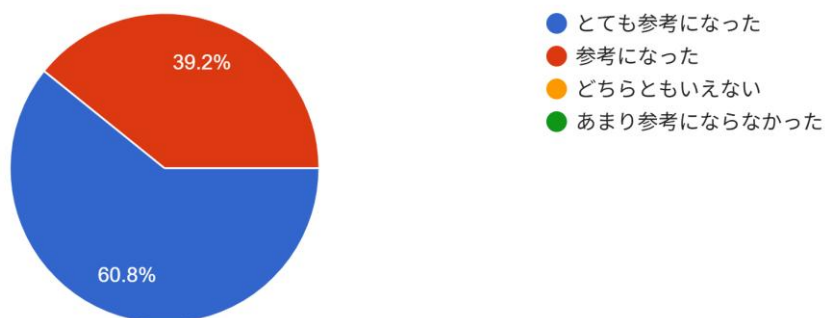


### 6. 「看取り期における意思決定支援（ACP）の重要性」について理解が深まりましたか

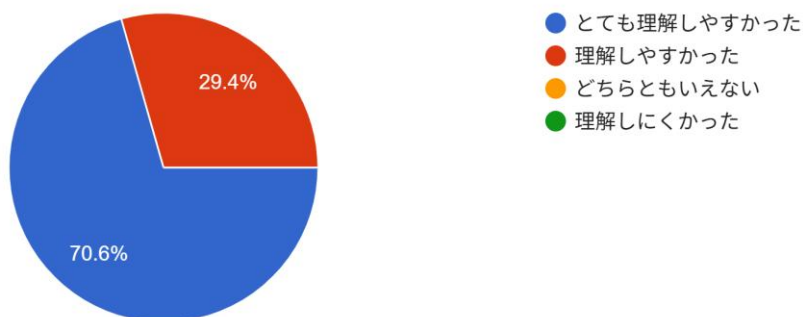
51 件の回答



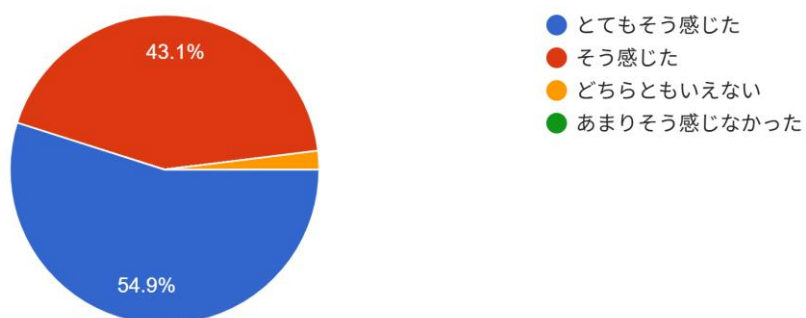
7. 地域での看取り（急変対応・症状マネジメント・生活支援・介護力）の視点は参考になりましたか  
51 件の回答



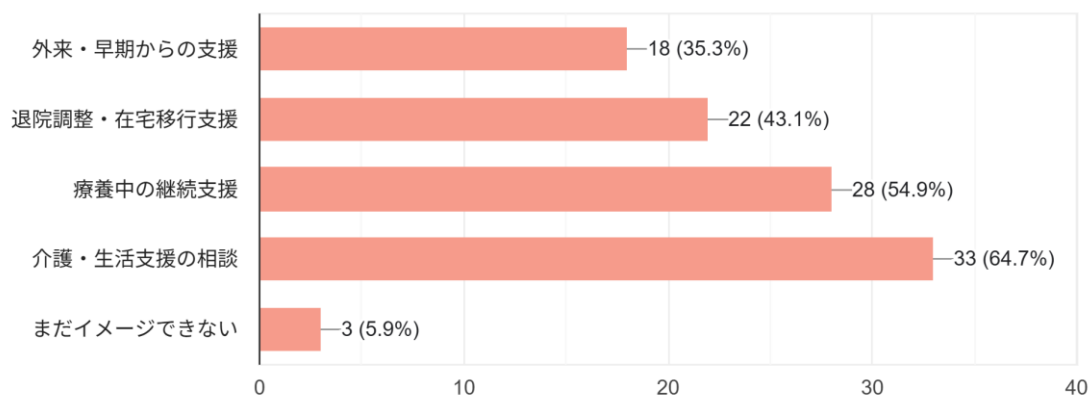
8. 「がんと向き合う暮らしのガイドブック」の構成・内容は理解しやすかったですか  
51 件の回答



9. ガイドブックを多職種共通のツールとして活用できそうだと感じましたか  
51 件の回答

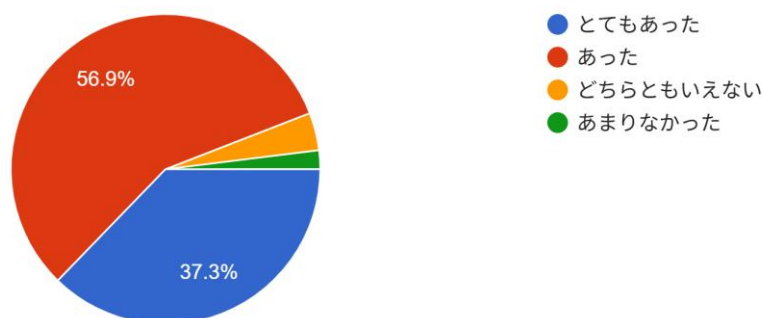


10. 今後、ガイドブックを活用してみたい場面をお答えください（複数選択可）  
51 件の回答



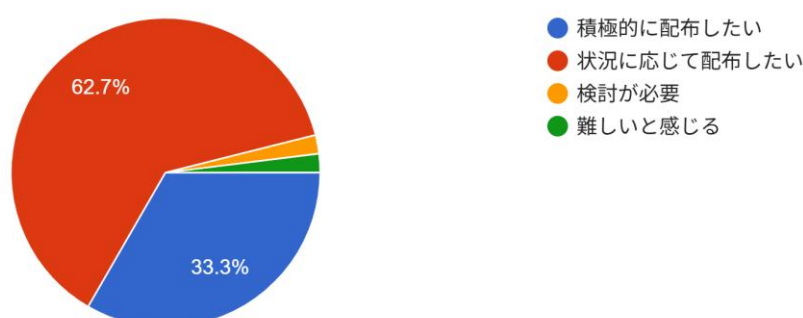
### 11. 本研修を通して、明日からの支援で「やってみよう」と思えたことはありましたか

51 件の回答



### 12. ガイドブックを患者・家族・利用者へ直接配布することについて

51 件の回答



### 13. ガイドブックの活用にあたり、不安を感じる点がありましたら、ご記入ください。

- ・できるだけ早期の場面、病院や包括で配布が望ましいと感じた。
- ・本人に告知されていない場合もあるのでその配慮に努めて行きたい
- ・信頼関係を本当に築けていけるか少し不安 多職種と連携してしっかりやっていきたい
- ・ケアマネから配布する事に家族が、どう思うか不安。まずは見せてみて欲しそうであれば配布してみたいと考える。
- ・情報を案内するタイミングにより傷つけてしまう可能性もあるので不安を感じる。
- ・特にないです。素晴らしい冊子を作成していただき、誠にありがとうございます。
- ・P29 8.地域のサービス情報 終末期AYA世代の在宅療養支援事業は、志木市、朝霞市も行っていると思います。→ご意見ありがとうございます。終末期AYA世代の在宅療養支援事業につきましては、志木市・朝霞市でも実施されていることを改めて確認いたしました。作成時に確認を行っていましたが、結果として記載が反映されておらず、申し訳ありません。今後の修正・改訂時の参考とさせていただきます。
- ・ガイドブックを利用することは出来るが、利用者・家族の質問や疑問の全てに答えることはできなさそうで不安
- ・とても伝えやすい内容です。困って、相談を受けたご利用者の方々にお伝えしたいと思います。
- ・発行元(朝霞地区医師会?)が書いてあると渡しやすい。朝霞地区在宅緩和ケア推進ネットワークが一般の方にはわからないと思うので。→失礼いたしました。HPガイドブックから抜けていたため、追加しております。ご参照いただけますと幸いです。
- ・不安はなくむしろ心強いツールです。ありがとうございます。20ページの居宅介護支援事業所に「S O M P O ケア朝霞」を追加していただくことは可能でしょうか？→ガイドブック掲載されている事業所は、HP上で6か月ごとに更新いたします。NWに加入いただけますと追加いたします。
- ・窓口で配布する際の、距離感についてやや難しいと感じます。当面は窓口付近に冊子の案内を掲示し、「この冊子をご希望の方はお申出ください」と記すようにしたいと考えていますが、他に良い方法があれば教えていただきたいです。
- ・配布にあたり、がん治療中の方で、死をイメージしたくない方への配慮が必要だと思いました。しかし、緩和ケア＝終末期医療ではないこと、緩和ケア病棟にも入退院が繰り返すことができるという情報提供と、患者さん、ご家族がACPについて早期から知って頂く機会を提供できる点から、積極的に配布する必要を覚えました。

・病名をがんと限定されてしまっているところが・・・そうでない、終末期の方もいらっしゃるのでは。参考にさせていただく内容は全く同じだと思いますので、ぜひ活用させていただきたいと思います。家族の方と面談させていただく機会も多いのですが、まだまだ本人が意思疎通できなくなって本人の気持ちや要望を聞いている方の方が少ないです。その場合は、一番近くにいらっしゃる方がその方らしい選択しを想像するしかないと伝えるようにしています。本人さんの思い、現状と家族の思い、気持ちが時間をかけて寄り添っていくよう支援することを心がけています。在宅、緩和ケアのお話が聞け知識を深めることができました。ありがとうございました。"

・がんと診断されてから、どの段階で渡すのが良いのか迷います。延命治療的なことまであるので、根治を目指している時にも万一の時を考えさせることにもなるのかと思いました。

・在宅で出来る医療や介護について、事例も含め分かりやすく、見やすく作成されているので、適切なタイミングでお渡しできるとより多くの方が、在宅で頑張ってみようかと、看取り期の過ごし方をほんの少しでも前向きにとらえてもらえそうで、非常に助かります。ただ一方で、最近ACPや在宅看取り支援という言葉が周囲（支援者側）で日常的に使われるようになっていますが、支援される側にとっては決してそんなことはないはずで、利用者や家族の中にはたとえ今、ターミナルな状態では無かったとしても、今までの人生の中で、そう簡単には話題にできない経験をされている方もいます。活用時には、そのことを十分意識した上で、受け入れ準備の出来ている相手かどうか、話すタイミングは間違っていないかなど、慎重に判断する必要があると思います。相手によっては大変有効な場合と、信頼関係も崩れてしまう場合もあると思うので、その点が不安です。

## 14. 今後の研修会のテーマでご要望がありましたら、ご記入してください。

・病気別療養生活方法。

・本日はありがとうございました。がんと診断されているご本人やご家族との接し方や早期の意思決定支援の重要性を理解することができました。今後も学ばせていただきたいと思います。

・訪問リハビリについての知識が深まるものがあればと

・実際にACPを行った事例などを使って、ACPに関するワーキングを参加者の方々と行ってみたいと思います。

・意思決定支援の部分をもっと詳しく聞きたい

・地域の課題を抽出し、施策を多職種で考える機会があればうれしいです。

・とても見やすく分かりやすいガイドブックだと感じました。ご本人や家族がこれからの事を不安に思った時に「自宅でも良いんだ」と安心できる内容だと感じました。

・制作して頂いたチームの方々、ありがとうございました。

・少子高齢化となり、在宅で担う職種の担い手も減っていくと思いますがいつまで在宅ケアは現在の手厚さを維持できるのでしょうか。

・朝霞市のような手厚い市と埼玉県北部にある市では在宅ケアの量・質ともに大きな差がありますがどのように埋められるのでしょうか。

・正直在宅で今後幸せに死ぬるのは金持ちだけだと思います。高齢者にお金をかけすぎている中これ以上現役に負担はできません。お金・人が減る中少子高齢化社会で在宅ケアを維持できる方法をテーマにしてほしいです。

・いつもありがとうございます。「老衰」が3位なのは知っていましたが、理由を聞いて「なるほど」と思いました。わたしが家族でも、死因に「老衰」と書いてもらえたら、まるで「よく頑張りました」と表彰状をもらえたような気持ちになると思います。